再就職支援講座
一関

小規模介護事業所
合同研修会　久慈

魅力発見バスツアー
宮古

小規模介護事業所
合同就職面談会　大船渡

みなさんにエールを送る 福祉のしごと情報誌

YELL

「人にあえーる（会える）」
人と人とをつなげること
（マッチング）が大好きな
“あえーる”ちゃんも
応援しております！

エールは、介護施設・事業所にとってタイムリーで役立つ情報をお届けするとともに、
介護の職場で働いている人・働きたい人を応援する情報誌です。

vol.03
FEBRUARY
2021.02.01

P.2 【特集】ホームページ、リクルートサイトの工夫が人材確保へ
理解を深めるために情報発信『社会福祉法人　安代会』
P.4 介護施設のリスクマネジメントと
セーフティマネジメントについて
P.6 福祉の現場で働く人にYELL
P.8 エールインフォメーション

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会　岩手県福祉人材センター

特集

ホームページ、リクルートサイトの工夫が人材確保へ

理解を深めるために情報発信『社会福祉法人　安代会』

八幡平市で地域に根差した介護・福祉事業を展開する社会福祉法人安代会。りんどう苑は、同法人が経営する特別養護老人ホームです。

インターネットで「りんどう苑　八幡平市」と入力してホームページを検索すると、トップ画面にあらわれるのは、横一列に並んだユニホーム姿のスタッフたち。そのすぐ下には「採用情報はこちら」と書かれていて、クリックすると自然の中で笑顔をみせる若者たちがあらわれます。彼らは、りんどう苑で実際に働いているスタッフ。私服姿からは親しみやすさが伝わってきて、もっとサイトを見たいという気持ちになります。サイト内には、教育制度や福利厚生、先輩からのメッセージなどを掲載。このサイトを見たことがきっかけで応募したという人も多いのだそうです。

ホームページを作成する際に工夫したポイントや、リクルートサイトの効果などについて、りんどう苑施設長の奈良忍さんにお話を伺いました。

共感につなげる三つのポイント

ホームページの作成に力を入れた理由について、奈良さんはスタッフの求人難が大きかったと言います。

「以前は求人を出すとすぐに反応があったのですが、近年は少子化や福祉の仕事離れもあってなかなか応募者が集まりません。学生や若い世代はSNSやWEBで情報収集しますので、ホームページやサイトを強化しようと考えました」。

従来のホームページは、既にりんどう苑を利用している人や、これから利用を考えている人などの〝サービスを受ける側〟に向けてのものでした。それがスタッフの求人難をきっかけに、〝サービスを提供する側〟に向けての発信ツールとしてリニューアルが始まりました。

リニューアルにあたり、こだわったポイントが3点あります。一つは、「写真」です。

「ホームページやリクルートサイトに掲載されている人物写真は、全てりんどう苑のスタッフたちが被写体になっています。だからこそ、表情からどんな気持ちで働いているかが伝わりますし、職場の雰囲気もわかります。応募者からも、『自分が働いているイメージがつきやすかった』と言われました。フリー素材のほうがコストもかからず手軽に済みますが、それではりんどう苑の良さが伝わらず、リクルートの効果も薄いのではないでしょうか」と奈良さん。

二つ目は、「先輩からのメッセージ」です。リクルートサイトには、主任介護支援専門員や介護福祉士、看護師など6名のスタッフの入職までの経緯や、仕事の魅力が記されています。

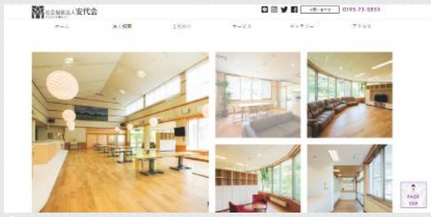
「これらを読むことで、共感できるかどうかが大事だと思います。同じ気持ちを抱いて、ここで働きたいと思った人は、入職後にギャップを感じることなく長く勤務してくれます。私たちとしても、掲載された言葉に共感する人たちと働きたいと思っています」。

三つ目は、「将来のビジョン」です。リクルートサイトには「先輩からのメッセージ」の他、「教育制度」、「仕事と家庭の両立」、「将来の給料」の欄を設けて、図表でわかりやすく説明。できるだけ可視化することで、入職後に自分がどのような道をたどるのか、何を目標とするのか、イメージがつきやすくなり、モチベーションのアップにもつながるのだそうです。

りんどう苑のリクルートサイトのトップ画面。
木々の間から、それぞれのポーズでたたずむ姿が、
閲覧者との距離を一気に縮めてくれる。
「福祉は特別な仕事ではありませんよ」という
メッセージが伝わってくるようだ。

ホームページの一部をご紹介

トップ画面の別バージョン。真剣な表情が印象的。



「ギャラリー」には、室内写真を多数掲載。

イラストを使用することで、わかりやすく説明。

スタッフ写真から、仲の良さが伝わってくる。

施設の良さを、正確に伝える

「写真」「先輩からのメッセージ」「将来のビジョン」の3点を重視したリクルートサイトは評判が良く、八幡平市外、岩手県外からも応募が集まり、問い合わせも増加したといいます。

応募増加の理由は、ホームページやリクルートサイトの〝見せ方〟だけではありません。見せるための〝働き方〟や〝環境〟の良さが前提にあるからこそ、定着率90％以上という高さにつながっています。

働き方の面では、デジタル化を推進。介護記録を紙からiPadに変更したことで、作業の時間短縮を実現。「私たちの仕事は、利用者さんに寄り添うこと。効率化が図れた分、利用者さんとの時間に充てることができています」と奈良さんは言います。

また、ホームページを見て県外からも応募者がいる一方で、地元の高校生が無資格で入職を希望する場合も多く、資格取得のバックアップにも力を入れています。先輩が指導者として補佐するチューター制度や、受験料の援助など制度が充実しており、介護福祉士の取得率も高いそうです。

環境の面では、2017年に施設内を改装しました。木材をふんだんに使用した室内に、照明をうまく使用することで、親しみやすい雰囲気を演出。利用者さんからもスタッフからも好評です。

「福祉業界は歴史的に病院から派生していることもあり、未だにそのイメージが残っています。ですが、病院は治療を目的として短期間で退院するところであり、特別養護老人ホームは利用者さんが生活する場所です。温かみや家庭らしさが大事なのではと思っています。ホームページからもその雰囲気が伝わるように、室内写真の見せ方やデザインをお願いしています」。

設立30周年に向けて

安代会は今年、設立から30周年を迎えます。この節目を機に、改めて安代会の強みや弱み、価値観などの見直しを図っています。スタッフへのアンケートや協議を経て、これからの時代に合わせた理念を掲げる予定です。

そして、新たな方向性をスタッフ間で共有するだけではなく、施設の利用を考えている方々や、この業界で働くことを希望している人たちにも発信していきます。その発信源となるのが、ホームページです。現在、リニューアルの準備中。さらなる進化に挑戦する安代会に、これからも注目です。

りんどう苑施設長の奈良忍さん

施設概要

社会福祉法人　安代会

◆設立：平成3年8月30日
◆施設：特別養護老人ホームりんどう苑
　　ふれあいセンター安代
　　グループホームやがみ
◆住所：岩手県八幡平市丑山口27-5
◆電話：0195-73-2855

インタビュー

介護施設のリスクマネジメントとセーフティマネジメントについて

東日本大震災以前と震災後、そして現在、新型コロナウイルスと多くの施設・事業所は「リスクマネジメント・セーフティマネジメント」に日々、尽力しています。ここでは遠野市に会社を構えるケア・グラント株式会社 代表取締役 唯是 光裕様に介護施設のリスクマネジメントとセーフティマネジメントについてインタビューを行いました。

介護におけるリスクマネジメントと基本的な視点

「介護施設におけるリスクマネジメント」とはどのようなものかリスクマネジメントに必要な要素と基本的な視点についてお聞かせください。

介護施設におけるリスクマネジメントといっても捉え方は様々あると思いますが、一般的には利用者の安全の確保や事故防止といったところでしょうか。今までは施設の中からの視点を主に重要視されてきたかと思いますが、今日では自然災害や第三者による被害など施設の外からの視点にも目を向けなければならなくなっています。そのため、施設の利用者の安全だけではなく、働く従業員の安全も考えていかなければならないと思います。

リスクマネジメントの具体的な取組

介護現場においてリスクマネジメントは事件や事故を未然に防ぐだけでなく、職員が安心して働ける環境をつくるという意味でも重要視されてきています。職員の意識を変えるリスクマネジメント体制づくりとリスクの把握についてお聞かせください。

弊社では、職員の意識を変えることから行っています。

介護事業所の多くは「利用者」と言いますが、弊社では「お客様」と言います。サービス業であるということを意識付けしています。一般的にはサービスを利用するとその都度お金を支払い、サービスを提供した側はお金を頂きお礼を言います。しかし、介護では施設内や訪問サービスにおいてサービス提供をしてもその都度、お金を頂戴しません。よって、商売としての取引が目の前で確認できないため『お客様』という理解が薄れてしまいます。そのような意識から変えるようにしています。また、弊社ではマニュアルを実行するために、経営計画書に様々な方針(マニュアル)を一緒に綴り、パート社員にも配布しています。そして、朝礼で方針を確認することにしています。

1年間通してそれを行うことでマニュアルを浸透させます。この方法は東京の企業のやり方を参考にしています。リスクの把握については、管理者にまかせっきりでは経営者としてリスクの把握ができないため、現場に出向いて自分なりに社員の動きや設備などの点検を行い、気が付いたところを確認するなどを繰り返しています。

セーフティマネジメントについて

安全な職場環境をつくることは、どのような職業においても大切なことですが、特に生命を預かる分野では、最重要項目であると言えます。こちらでは「セーフティマネジメント」と「リスクマネジメント」の違いと介護施設における「セーフティマネジメント」の内容についてお聞かせください。

リスクマネジメントは文字通りリスク(危険性の生じる可能性)を管理しようとするマネジメントであり、ヒヤリ・ハット事例の分析やマニュアルの見直し、安全確認の実施評価など。セーフティマネジメントは安全を管理しようとするマネジメントを意味する。利用者の安全を守ることは、介護職員自らの健康や安全が保障されるべきことへの認識を深め、介護における安全を確保するために知識・技術、事故防止や安全対策、感染対策や自然災害対策などを講じて、安全な生活を支える質の高い介護を行うことが介護施設におけるセーフティマネジメントではないかと考えます。

介護施設におけるリスクと管理体制の問題点

自然災害や感染症など施設において事故に対する管理体制を構築する重要性が高まっています。「介護施設におけるリスクと管理体制の問題点」として日々、どのようなことに気をつければよいでしょうか?

どちらの施設でも厚生労働省や県からの通知を基に、自然災害発生時マニュアルや感染予防マニュアルを作成していることと思います。インターネットが普及している時代、検索すれば様々な施設等のマニュアルも参考にすることができます。しかし、マニュアルは作成しただけでは何の意味もありません。よくあるのが、担当者が何ページにもなるマニュアルを作成したものの、実際その時になったら、「マニュアルがあることも知らなかった」「その時に初めてマニュアルを開いた」「現在の職員体制や環境整備にあっておらず使い物にならなかった」ということがあります。マニュアルこそPDCAが大切です。計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)を繰り返し行う必要があります。評価→改善を行わないと、何が良くて何が悪かったため改善する必要があるのか気が付くことができません。毎年、どの時点でこれらを実施するのかということも日付を決めておくとよいと思います。

事故に対応する際の基本姿勢 ～事故の発生に備えて～

不幸にして事故が起きてしまった場合の基本的な考え方と、その対応についてお聞かせください。

事故が起きてしまった場合の基本的な考えとして、弊社ではお客様の利益を守ることを基本方針としているため、すぐに対応・処理をすることが基本的な考えで、お客様の状態の把握と必要があれば病院受診や医療機関への相談、ご家族様、担当ケアマネジャーへの報告、保険者への報告を速やかに行う。さらに、担当の保険会社にも報告を行います。大切な事は時間を置かずにすぐに対応することだと考えます。

最後に…

「リスクマネジメント」という言葉は以前からありましたが「東日本大震災」を機に大きく日本の社会に認知された言葉のひとつかと思います。震災後のリスクマネジメントは震災前に比べ組織や個人の意識を大きく変えました。今回の新型コロナウイルスを機に生活様式同様に、また新たな「リスクマネジメントとセルフマネジメント」というものが構築されていくものと思われますが、唯是さんは新型コロナウイルス後の「リスクマネジメント」と「セルフマネジメント」というものはどのように変わっていくと思われますか?

基本的に今までとこれからとのリスクマネジメントとセルフマネジメントは変わりないと私は思います。確かに、今までは人と人とが集まり、様々なことが行われてきましたが、現在では一定の距離や対策を取りながらも人のコミュニケーションは継続しています。

今後は、感染予防と自然災害に対してのマネジメントは強化されていくと考えます。

これから変わるとするならば、団塊の世代の方々が介護サービスを利用する世代に代わっていきます。その時に、現在の利用者と団塊の世代の方々との生活に対する価値観が違うため、その価値観の変容によるリスクマネジメントやセルフマネジメントが変わるのではないかと考えています。

新型コロナウイルスが取りざたされているなか、リスクマネジメント・セーフティマネジメントについて、個人や事業所では様々な視点や意見があると思います。そのような状況下で快くインタビューをお受けいただき、誠にありがとうございました。

ケア・グラント株式会社　代表取締役 唯是(ゆいぜ) 光裕(みつひろ) 氏

唯是氏は現在、介護者の技術や専門性の育成、介護者の「心」を育てることをテーマに活動。岩手県介護支援専門員協会・幹事、理事を歴任。釜石広域介護支援専門連絡協議会　会長歴任。遠野市職業訓練協会主催の介護職員初任者研修講師、倫理教育担当講師就任。自法人だけでなく岩手県内の人材育成にも尽力、幅広く活躍されている。

《会社概要》
設立：2012年9月3日
施設：かなえケアマネステーション
　　かなえケアステーション
　　住宅型有料老人ホームかなえ
住所：遠野市穀町13-1
電話：0198-68-3022

福祉の現場で働く人にYELL

福祉・介護の仕事に携わる人材の確保が難しくなっている中、介護の職場と求職者との橋渡し役を担っているのが福祉人材センターのキャリア支援員です。求職者に対し、必要に応じて、応募の前に施設見学・職場体験の機会をつくる等、きめ細かな支援を行っています。キャリア支援員が関わり、介護の職場に就職した方や異業種から転職した方がたくさんいます。このコーナーでは希望がかなって今いきいきと働いている方を紹介します。

社会福祉法人　健慈会
特別養護老人ホーム結の里
介護員　**小袖 明子**さん
（令和２年１月採用）

久慈職業訓練校で女性就労援助事業の介護初任者研修科を、介護以外の仕事をしながらの受講した小袖さん。修了後は介護の仕事に向け面談会に参加をして、しごと体験を申込むなど積極的な就職活動をされました。子育てとの両立を施設に相談をして意欲的なところを評価され介護員としてスタートしました。

福祉・介護の仕事を選んだ理由（きっかけ、地元就職の理由など）

以前は接客業の仕事をしていましたが、介護職に興味があったので初任者研修を取得しました。「何年か経ったら、介護の仕事を始めてみよう。」と思っていましたが、ご縁があって結の里で働けることになりました。初めの頃は不安でしたが、介護経験のない私に職員の皆さんが、優しく指導をしてくださるので助かっています。雰囲気の良い職場なので、相談しながらいつも楽しく仕事をしています。

仕事の内容は？

食事や入浴、排泄介助などの身体的な介助はもちろん、看護職員や他職種と連携し、健康管理をしています。入居者様と一緒に楽しめるレクリエーション活動もあります。

日々心掛けていることは？

入居者の皆さんが安心して過ごせるように、明るい表情や声でコミュニケーションを図っています。職員からも、入居者様からも話しかけやすい職員になれるよう、笑顔でいることも大事だと思って意識しています。

また、入居者様一人一人の小さな変化などにも気付き、早めに対応出来るよう日々心掛けています。

今後の目標を教えてください

先輩方に教わった介護の基本に沿って、入居者様にとってより良いケアができるよう、ひとつずつ頑張りたいと思っています。

数年後には、介護福祉士の資格を取ろうと考えています。勉強も仕事も焦らずゆっくり、自分なりのペースで頑張っていきますので、応援よろしくお願いします。

施設からのコメント

ユニットリーダー
米田 真由美さん

小袖さんについて

介護未経験ではありますが、とにかく介護の仕事がしたいという思いで入社し、1年になります。介護経験もなく最初は不安だったと思いますが、仕事を覚えようとする姿勢や、入居者に対しても積極的にコミュニケーションを図れる所が、小袖さんの良い所だと思っています。今は慣れてきた頃なので、焦らず一つ一つの仕事を確実に丁寧にこなし、色々な経験を積んで自信をつけていってほしいです。

また、介護福祉士の資格を取りたいという目標があるようなので、その目標に向かって日々勉強をしながら頑張ってほしいです。その為にも小袖さんが安心して学びながら働いていけるよう私達もサポートしていきたいと思います。

担当キャリア支援員よりメッセージ

県北エリア担当　**城内 公子**

施設見学で訪問させていただいた時に、小袖さんの働く姿を何度か拝見させていただく機会がありました。その度に介護員として楽しみながら、また、責任感を持って働いていることが表情から伝わりました。入居者様と談笑する笑顔も就職活動をしていた時のはつらつとした笑顔で、仕事への熱意が変わっていないと感じました。相談当初より資格のスキルアップも視野に入れておりましたので、今後を担う介護員として期待が高まります。さらなるご活躍を応援させていただきます。

施設について

平成24年6月に開設した当施設は、特別養護老人ホーム結の里（定員29名）の他にグループホームぬくもり（共用型認知症対応型通所 定員3名）を併設しており、地域密着型の事業所として介護サービスは基より、認知症カフェや子ども居場所づくり事業 あんしんサポート事業を行うなど、地域の方々に身近な施設としてご利用いただけるよう、安心・安全な施設を目指しています。

開設当初、東日本大震災復興支援も兼ね地域雇用の活性を目的に採用した職員のほとんどが地元出身者でヘルパー資格のみの介護未経験者。働きながら経験を積み今では全員が介護福祉士を取得し施設全体の取得率は90％以上となりました。

育休取得者も100％復帰するなど、資格取得やスキルアップ、子育てと両立できる職場環境づくりに努めています。

（笹本 修一 施設長）

社会福祉法人　松園福祉会
特別養護老人ホーム　あすかの杜
介護補助員　**照井 圭美**さん
（令和２年10月採用）

照井さんは、昨年8月相談会に来所。当時の仕事が午前中のみになり、午後にできる仕事を希望。福祉の仕事は未経験でしたが、以前から興味もあったことから福祉人材センターのことを知ったとのこと。状況を確認し、週2～3回程度でできる非常勤パート職を探すこととしました。あすかの杜さんの求人に「介護補助・助手」という職種があり、早速、同行見学を実施。福祉人材センターの「介護のおしごと職場体験」について案内したところ、快くお引き受けいただき、体験直後に応募・採用となりました。

福祉・介護の仕事を選んだ理由（きっかけ、地元就職の理由など）

サイトで福祉人材センターのことを知り、相談に伺いました。無資格未経験から福祉介護の仕事に就いている方も多くいることを知り応募について前向きに考えるようになりました。

仕事の内容は？

居室のシーツ交換やお掃除、共用部の床のモップ掛けなどの清掃や食器洗いやトイレ掃除などです。

日々心掛けていることは？

新型コロナウイルス感染症予防を一番に気を付けています。また、やるべき仕事が多くあることから、時間内に終われるようにスピード感を持ちつつも、雑にならないように丁寧に取り組むようにしています。また、コミュニケーションも気を付けています。

今後の目標を教えてください

まずは、今任されている仕事をしっかりとできるようになりたいです。補助とはいえ、失礼のないようにマナーを守って早くて質の高い仕事ができるようになることが目標ですので、頑張りたいです。

担当キャリア支援員よりメッセージ

県央エリア担当　**三浦 由紀夫**

「介護補助・助手」という職種が福祉人材センターの求人票に掲載できるようになりました。国がすすめる「介護入門研修」を受講後、「介護補助・助手」という働き方を求める求職者も多くいます。有資格者には身体介助など専門職の業務に専念するメリットは大きく、照井さんのように生活介助など周辺業務は「補助・助手」の方にお願いする分業により介護専門職の負担は大きく減っているとのこと。

求職相談時には不安そうだった照井さんの瞳に今は、新しい仕事にチャレンジしている輝きに満ちているようでした。利用者さんからも介護専門職員の方からも頼りにされるような職員さんに一日も早くなれるよう照井さんの今後の頑張りにエールをおくります。

照井さんについて

優しい笑顔の圭美さん。入居者様の声に耳を傾け優しく接して頂いており、その姿に入居者様はじめスタッフも安心し一緒に過ごすことができます。

あすかの杜では「介護補助」という働き方で勤務しております。

介護の仕事は初めてですが、入居者様の話し合い手、車椅子を押しての移動の手伝い、シーツ交換、居室の掃除、食事の盛り付けや片付け等研修を経て現在活躍しております。車椅子での移動の手伝いでは入居者様とコミュニケーションをとりながらゆっくりと移動支援をしています。また、居室の掃除、シーツ交換では入居者様のご自宅から持って来られた思い出の物や大切な家具を大事に扱い掃除していただき入居者様からも感謝されております。掃除をしている居室からは入居者様との会話からの笑い声も聞こえてきます。

仕事に就き5か月。あすか杜の一員になっていただき感謝しております。

施設からのコメント

理事／施設長
佐々木 俊幸さん

施設について

花巻あすかの杜は、平成20年にユニット型の特別養護老人ホームとして開設しました。現在は、特養の定員70名、そのほかショートステイ定員10名、デイサービス定員28名のほか、居宅介護支援事業所を併設した施設です。

ユニットケアの理念である「暮らしの継続」を念頭に、入居者一人ひとりのプライバシーやその人なりの生き方を尊重することを基本とし、全室個室による個別ケアを提供しています。

ユニットとは生活単位であり、なじみの関係を築きやすい1ユニット10人で、家庭的な雰囲気の中で生活することができます。各ユニットにはご自宅で利用している物を持ち込める居室の他に、調理、食事、談話を楽しめるスペース、洗面所、トイレ、浴室等も完備し、個人的空間と公共的空間を兼ね備えた施設です。

また、基本的なサービスのほか、季節ごとの行事や各種クラブ活動など、地域と一緒になってその人らしい充実した生活となるように支援させていただいております。そのためには、介護員だけでなく、看護師や栄養士など、多職種のチームワークでより良いサービスの提供ができるように日々努めています。

YELL インフォメーション

認知症予防に効果があるレクリエーション
支援の知識や方法を学んでみませんか

年齢を重ねるとともに増加する「認知症」。高齢者の数が増え続ける現代において、その数は急激に増大しておりますが、認知症を治すための治療方法や薬はいまだ十分には確立されていません。認知機能向上のポイントは、体と頭にある程度の負荷をかけること。これを組み合わせたプログラムが認知症予防に重要な効果があることが明らかになっております。

レクリエーションには「運動する」「頭を使う」「楽しむ」の要素があり、認知症予防に効果があります。レクリエーション・プログラムの中には、認知症予防の効果がアップするゲームやアクティビティがたくさんあります。少しずつ難易度をアップできたり、限られたスペースでできるのも良いところです。

頭と体のウォーミングアップ

プログラムの最初に行うと効果的なアクティビティ。
運動量は多くありませんが、けっこう頭を使います。
工夫次第で難しさと運動量をアップでき、自宅での練習を促すことができます。

〈グーパー〉

右手を前に出してパー、左手を胸の前でグー、同様に右足を前に真っすぐ伸ばしてパー、左足も足を曲げた状態でグーにし、「セーノ」の合図で「ヨイショ」の声とともに左右の動作の入れ替えを続けます。それができたら、次は前に出す手をグー、胸の手をパー、伸ばす足をグー、曲げる足をパーにします。

難易度アップ
左右を入れ替える時に拍手を１回入れたり、歌に合わせて行います。
右手がパーの時、右足はグーにするなど、手と足のポーズがクロスするように入れ替えます。

（紹介：特定非営利活動法人岩手県レクリエーション協会）

認知症予防や介護予防など、楽しみながら健康づくりに取り組めるレクリエーション・プログラム。
特定非営利活動法人岩手県レクリエーション協会で、これらのプログラムを楽しく学ぶことができます。

レクリエーション講習会など

- **公益財団法人日本レクリエーション協会公認「レクリエーション通信講座」**
  詳細は公益財団法人日本レクリエーション協会ホームページ https://www.recreation.or.jp をご覧ください。
- **「公益財団法人日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター養成講習会」および「福祉レクリエーションセミナー」**
  来年度に開講予定。
  詳細は特定非営利活動法人岩手県レクリエーション協会ホームページ http://www.ac.auone-net.jp/~i-rec/ でお知らせします。

【問合せ先：特定非営利活動法人岩手県レクリエーション協会　電話 019-647-7413 】

福祉のお仕事 FUKUSHI-JOB SEARCH

求人・求職情報総合サイト「福祉のお仕事」では、インターネットを介して事業所から求人申請ができます。詳しくは、下記までお問合せください。

福祉の求人・求職は岩手県福祉人材センターへ
社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会
岩手県福祉人材センター
岩手県盛岡市三本柳8地割1番3 ふれあいランド岩手2F
TEL.019-637-4522 FAX.019-637-9612
E-Mail fukushijinzai-1@iwate-shakyo.or.jp
携帯サイトはこちらから